

トルコで本県薬剤師奔走

斎藤さん(田野病院) 援助隊活動

死者5万人超となつたトルコ・シリア大地震は、間もなく発生から1カ月を迎える。その震源地に近いトルコ南部の街に、田野病院(田野町)の薬剤師長、斎藤忠男さん(42)が国際協力機構(JICA)の国際緊急援助隊員として派遣されていた。11日間、野営病院を運営しがれが人や病人が拘束される現地で、休む間もなく資材管理と患者対応に当たつた。「後ろ髪を引かれる思いで帰ってきた。復興に向け、まだまだ長い支援が必要だ」と振り返る。

大地震復興「長い支援を」



地震は2月6日、トルコ南部で起きた。早朝にマグニチュード(M)7・8、震源はガジアンテブ付近でM7・5の強い揺れに見舞われ、多くの建物が崩壊した。その下敷きになるなどして、死者は隣国のシリアを含め23日までに5万人を超えた。

斎藤さんは災害医療に携

わろうと2016年、援助隊に登録。19年にはモザンビックのサイクロン被災地で活動した。今回は全国の医師や看護師ら51人の医療チームの先発隊として、12日に羽田空港からトルコに向け出発した。

イスタンブールから国内便で南部アダナへ。そこからバスで4~5時間、崩れた家屋やがれきの山を見ながら進む。柱がしっかりしない、石積みのもうい建物が多かつた

震源に近いガジアンテプへ着いたのは、被災8日目

■寝袋 2重にして

性疾患のある人や交通事故の負傷者、妊婦ら。近くの避難所から、毎日100人前後

が押し寄せる。隊員が交代

しながら24時間対応した。

しかし、24時間対応した。

それが24時間対応した。

これが24時間対応した。

これが